

## 第五次計画のスローガンに関する委員からの御意見について

## 資料5

### ■これまでのスローガン

第一次 「働き盛りのがん死亡率半減」

第二次 「がんにならない がんに負けない」

第三次 「がんを知り がんと向き合う」

第四次 「がんを知り がんと向き合う～県民の参療を目指して～」

### ■第五次計画のスローガンに関し、いただいた御意見

- 「参療」というキーワードは茨城県独自のものなので、入れてもらいたい。自分自身学校現場でがん教育講演会を行うときにも「参療」については必ず説明している。【志賀委員】

※9月25日（月）までに、委員の皆様からいただいた御意見・御提案は、追加配布の参考資料4をご覧ください。

(参考)

## 国の全体目標に対する「がん対策推進協議会」における主な発言

### ・「誰一人取り残さない」

**中釜委員**：いわゆるユニバーサルヘルスの考えであり、より徹底的に行うという意味では項目として加えておくべき

**松田委員**：がん検診については誰一人取り残さないような組織型検診の体制を整備する、その方向に向かうべき

**谷島委員**：健康日本21のビジョンにもあるように、格差を是正し、誰一人取り残さないという考え方をベースにした多様性とWell-beingみたいなことがこの時代のキーワードになって、計画の中でも発信すべきメッセージではないか

**前田委員**：「健康格差を是正し、誰一人取り残さないがん医療の実現を目指す」というものはいかがか。「誰一人取り残さない」という、国際社会でもこれからの目標とされている重要なキーワード

**久村委員**：「がんの死亡率の減少、患者のQOLの維持向上と、がんに関する格差の縮小を目指す」という表現にするということを提案したい

**事務局**：「いつでも」「どこでも」という要素に加えて「誰もが」と明記していくことで、誰一人取り残さない、包摂性・多様性といった価値を全体目標の中で示すことができたらいのではないかという意見あり

## ・「がんの克服を目指す」

**久村委員：**「がんの克服を目指す」という部分は、がんの根治治療や治癒を目指すという印象を与えてしまう場合が多いのではないか。

「がんの克服」という言葉の意味するところは、がんの治療だけではなく、がんやその治療による心身の苦痛を克服することや、がんによる偏見や社会的不利など様々な格差も克服することも意味していることがより明確に伝わるようにこれを改訂したらどうか

**前田委員：**がんは治療に専念すべきというイメージを与えて、仕事や生活を諦めたり犠牲にしてがんと闘うことを目標にしてしまわないか。

治療前に仕事を辞めるのはその典型で、治療の目的は全くの逆で、日々の暮らしを守るために適切な医療を受けるものだ。

「がんの克服を目指す」というのは、誤解を生じさせるのではないか。また、「がんとの共生」と相反するもので、少し疑問を感じる。

**石岡委員：**「全ての国民ががんとともに自分らしく生きられるよう、がん克服を目指す」、あるいは「がんとともに自分らしく生きられるよう、全ての国民でがん克服を目指す」としてはどうか。

**事務局：**「克服」については、第3期でも使われていたフレーズではあるが、一方で、「克服」というのは、治療に専念するべしといったようなイメージづけになるのではないかという否定的な御意見を頂戴した。

他方で、御議論の中で、がんをコントロール下に置くのだということの趣旨としても大事なのではないかという御発言もあったように記憶している。